

NSG グループ

2025年3月期 第2四半期決算報告

(2024年4月1日～ 2024年9月30日)

日本板硝子株式会社
2024年11月8日

細沼 宗浩
代表執行役社長 兼 CEO

大河内 聡人
執行役常務 CFO

目次

1. 2025年3月期 第2四半期決算概要
2. 2025年3月期 業績予想について
3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況
4. 欧州の事業環境と施策
5. まとめ

CFOの大河内です。

本日はご多忙の中、弊社決算説明会にご参加頂き、誠に有難うございます。
また常日頃から弊社事業にご理解とご支援を賜り、あらためて御礼申し上げます。

本日の説明内容ですが、3ページにお示した内容になります。
2025年3月期第2四半期決算概要および
2025年3月期の業績予想について私からご説明し、
その後、CEOの細沼より2024年4月から開始した中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗と
欧州の事業環境と施策についてご説明いたします。

1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

連結損益計算書



欧州経済減速の大きな影響が建築用ガラス事業を中心に継続。
売上高は為替影響もあり前年同期と同水準だが、営業利益は減益

(億円)	7-9月期 (3か月)			累計 (6か月)			上期業績 予想
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	
売上高	2,122	2,060	△ 62	4,202	4,224	23	4,100
営業利益	115	55	△ 60	260	102	△ 158	120
営業利益率	5.4%	2.7%	△ 2.7 pt	6.2%	2.4%	△ 3.8 pt	2.9%
個別開示項目 (純額)	11	△ 2	△ 13	3	△ 0	△ 3	-
個別開示項目後営業利益	125	53	△ 73	263	102	△ 161	120
金融費用 (純額)	△ 77	△ 66	11	△ 140	△ 126	15	△ 130
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	37	-	△ 37	-
持分法による投資利益	12	14	2	22	25	4	25
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	△ 0	-	0	11	-	△ 11	-
税引前利益	61	1	△ 60	193	2	△ 192	15
当期利益 (△損失)	30	△ 61	△ 90	105	△ 34	△ 139	10
純利益 (△損失)*	27	△ 63	△ 90	98	△ 39	△ 136	0
EBITDA	226	175	△ 51	480	350	△ 130	

自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業は増収だが、建築用ガラス事業を中心に全事業で営業利益は減益

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	△ 130	△ 151
自動車用	+ 121	△ 28
高機能	+ 48	△ 1
その他	△ 17	+ 22
グループ全体	+ 23	△ 158

欧州の金利低下に伴い前年同期比減少

前年はロシアJVの売却に伴い、過去に計上した金融債権および投資に対する減損損失の戻入益を計上

法人所得税は通期の見積実効税率に基づき計算

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

5

まず、5ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が第2四半期 (3か月) の業績、
真ん中が上期累計 (6か月) の業績、その右側が上期予想になります。

当第2四半期 (7-9月期) の売上高は、
前年同期比62億円の減収で2,060億円でした。
欧州における経済減速の影響を大きく受けた建築用ガラス事業と、
自動車生産台数の減少の影響を受けた自動車用ガラス事業で減収でしたが、
高機能ガラス事業において増収となりました。
上期累計では為替影響もあり前年同期と同水準の4,224億円となり、
上期予想を上回りました。
自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業は増収でしたが、
建築用ガラス事業で減収でした。

営業利益は、当第2四半期は前年同期比60億円減益で55億円でした。
主に建築用ガラス事業の減収に加え、全事業で世界的に継続するインフレを反映した
人件費等その他コストが増加したため減益となりました。
上期累計では前年同期比158億円の減益で、102億円となりました。
欧州の経済減速の影響を大きく受けた建築用ガラス事業を中心に
全事業で減益でした。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は純額で0.4億円の費用でした。

金融費用は、純額で126億円となり、前年の140億円から15億円改善しました。
これは前年同期と比較し、欧州の金利が低下したことによるものです。

持分法適用会社について、持分法による投資利益は25億円となり、前年の22億円から4億円改善しました。

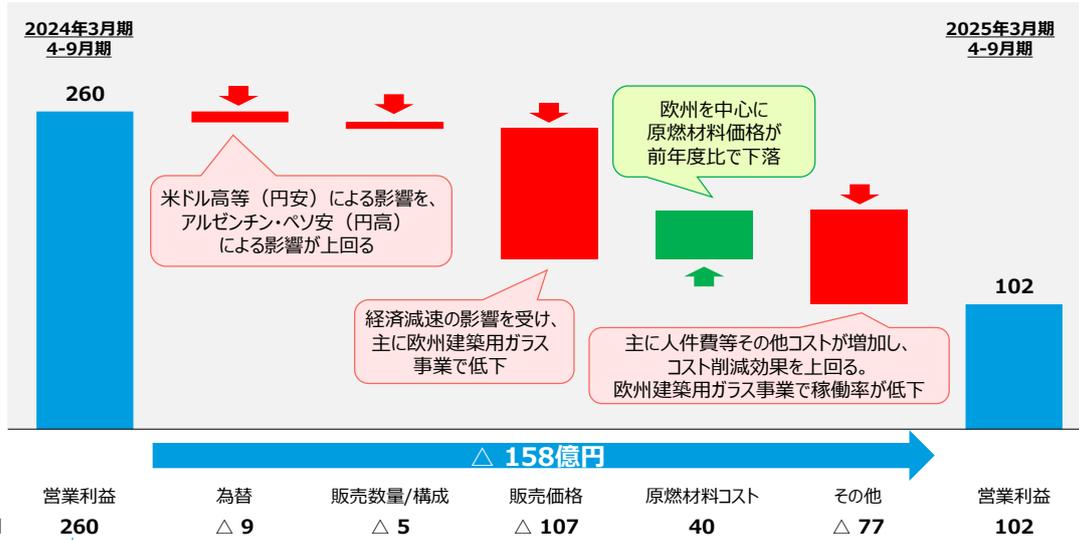
なお、前年度第1四半期には、ロシアにおけるジョイント・ベンチャーを売却したことに伴い、一過性の利益として過去に計上した持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益37億円を計上し、また投資の一部に対する過去の減損損失の戻入益11億円を、持分法投資に関するその他の利益として計上しました。

法人所得税は通期の見積実効税率に基づき計算しており、36億円でした。利益が上がっている国では法人所得税費用が発生している一方で、利益が上がっていない国では法人所得税費用のマイナスが発生していないため、グループ全体としての税率は依然として高水準となっています。これにより、当期損失は34億円で、純損失は39億円となりました。

引き続き欧州建築用ガラス事業を中心に、経済減速の影響を大きく受けましたが、コスト削減等の効果もあり営業利益については第1四半期から改善しています。

営業利益差異分析 (上期累計)

経済減速の影響を受け欧州建築用ガラス事業で販売価格と稼働率が低下。
人件費等の増加によりその他コスト増加も継続



2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

6ページは、上期の営業利益について前年度第2四半期累計の営業利益260億円と、当第2四半期累計の営業利益102億円との差異、158億円の差異分析です。

「為替」は、9億円のマイナスでした。米ドルをはじめとする外貨高 (円安) による影響をアルゼンチン・ペソ安 (円高) による影響が上回りました。

「販売数量/構成」は高機能ガラス事業および自動車用ガラス事業で改善したものの、欧州および米州の建築用ガラス事業で減少し、5億円のマイナスとなりました。

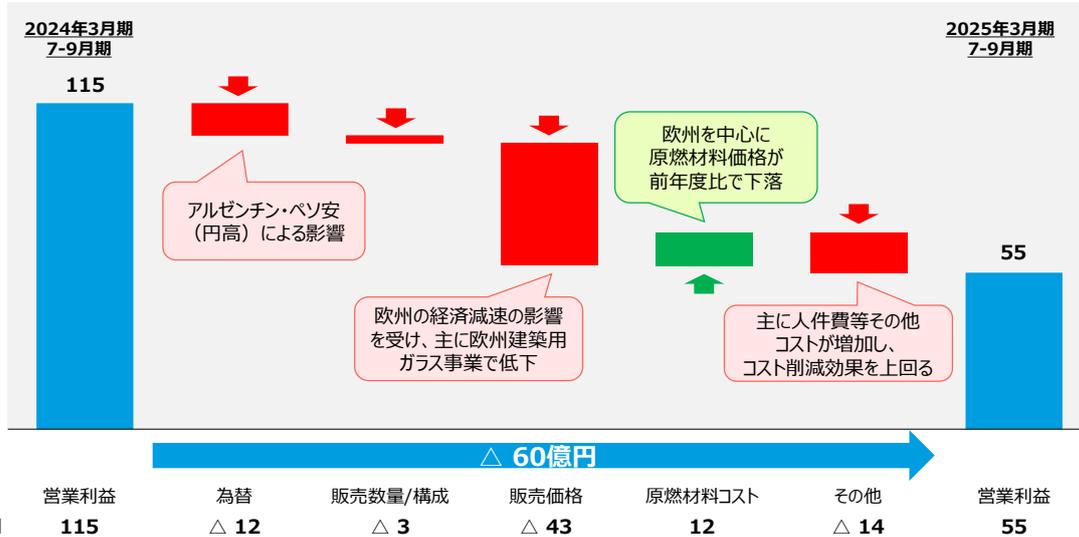
「販売価格」は、107億円のマイナスでした。自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業で価格転嫁の進捗に伴い改善しましたが、主に欧州の建築用ガラス事業で経済減速の影響を受け販売価格が低下しました。

「原燃材料コスト」は、欧州を中心に原燃材料価格が低下し40億円のプラスでした。

「その他」は、77億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、主に人件費などのコストが上昇し、コスト削減効果を上回りました。また、経済の減速に伴い販売数量が減少した影響を受け、欧州建築用ガラス事業で資産稼働率が低下しました。

営業利益差異分析 (7-9月期)

経済減速の影響を受け欧州建築用ガラス事業で販売価格の低下が継続。
 欧州建築用ガラスの稼働率低下は緩和したが、人件費等の増加によりその他コスト増加も継続



2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

7ページは、第2四半期の営業利益について前年度第2四半期の営業利益115億円と当第2四半期の営業利益55億円との差異、60億円の差異分析です。

「為替」は、アルゼンチン・ペソ安 (円高) の影響を受け12億円のマイナスでした。

「販売数量/構成」は高機能ガラス事業と自動車用ガラス事業で改善したものの、欧州および米州の建築用ガラス事業で減少し、3億円のマイナスとなりました。

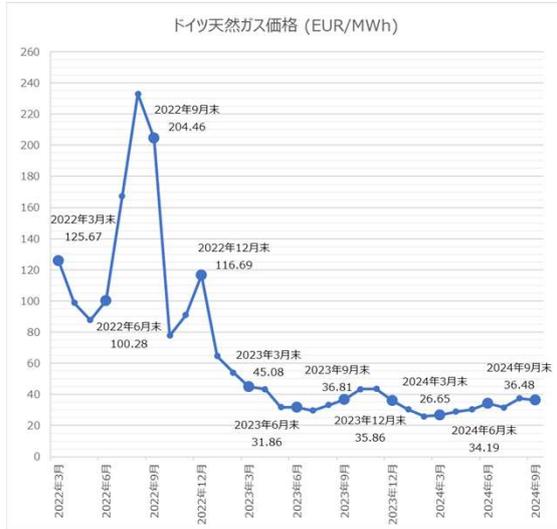
「販売価格」は、43億円のマイナスでした。主に欧州の建築用ガラス事業で経済減速の影響を受け、販売価格が低下したためです。

「原燃材料コスト」は、欧州を中心に原燃材料価格が低下し12億円のプラスでした。

「その他」は、14億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、主に人件費などのコストが上昇し、コスト削減効果を上回る状態が継続しています。一方で、欧州の建築用ガラスの資産稼働率の低下は、6月にドイツのフロート窯1基を生産停止したため、緩和しました。

エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：前年度以降安定的に推移
日本の重油価格：引き続き高値圏で推移



2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

続きまして、8ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は前年度から継続して安定的に推移しました。
日本における重油価格は引き続き高値圏で推移しました。

連結貸借対照表



自己資本比率は11.1%と前期末比で1.2pt低下。
 有利子負債は営業減益および運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより前期末比で増加

(億円)	2024年 3月末	2024年 9月末	増減	
資産合計	10,076	9,812	△ 263	主に為替影響（円高）による有形固定資産の減少
非流動資産	6,863	6,739	△ 124	主に棚卸資産、売掛債権およびその他の債権の減少
流動資産	3,213	3,073	△ 140	主に仕入債務およびその他の債務の減少
負債合計	8,537	8,399	△ 138	主に有利子負債の増加
流動負債	3,699	3,366	△ 333	
非流動負債	4,839	5,033	194	
資本合計	1,538	1,413	△ 125	主に為替影響（円高）および純損失の計上により自己資本比率が11.1%に低下
親会社の所有者に帰属する持分	1,243	1,093	△ 150	
自己資本比率（%）	12.3%	11.1%	△ 1.2pt	
有利子負債	5,065	5,310	246	主に営業減益および運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスによる増加

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

9

9ページは連結貸借対照表になります。

2024年9月末時点の総資産は9,812億円となり
 2024年3月末時点から263億円減少しています。

非流動資産は、主に円高の影響を受け
 有形固定資産が減少した結果、124億円の減となりました。
 流動資産は主に棚卸資産、売掛債権およびその他の債権が
 減少したため140億円の減となりました。

流動負債は主に仕入れ債務およびその他の債務の減少により
 333億円の減となりました。
 非流動負債は有利子負債が増加し194億円の増となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、主に円高と
 純損失の計上の影響により150億円減少し、1,093億円でした。

この結果、自己資本比率は前期末比で1.2ポイント低下し11.1%となりました。

有利子負債は前期末比で246億円増加し、5,310億円となりました。
 これは主に、営業減益および運転資本の季節的な変動に伴う
 フリー・キャッシュ・フローのマイナスによるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは、7-9月期ではプラスだが前年同期比では営業減益のため減少。
 営業活動によるキャッシュ・フローは、運転資本の季節的増加の抑制が営業減益の影響を軽減

(億円)	7-9月期 (3か月)			4-9月期累計 (6か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	209	156	△ 53	34	△ 38	△ 72
(うち、運転資本の増減)	71	125	54	△ 313	△ 167	146
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 79	△ 125	△ 46	△ 220	△ 248	△ 29
(うち、有形固定資産の取得)	△ 140	△ 117	23	△ 278	△ 235	43
フリー・キャッシュ・フロー	130	30	△ 100	△ 186	△ 286	△ 101
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 51	88	139	1	311	310
現金及び現金同等物の増減	80	119	39	△ 185	25	210
現金及び現金同等物 期末残高				552	460	△ 92

運転資本の季節的な増加の抑制により営業減益の影響を軽減

7-9月期ではプラスだが前年同期比では減少

10ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期（7-9月期）の3か月間では、前年同期から53億円減少し、156億円でした。運転資本の減少額は増加したものの、営業利益が大きく減少した影響を受けています。上期累計では、前年同期より72億円減少し、38億円のマイナスでした。ただし、運転資本の季節的な増加を146億円抑制することにより、営業減益の影響を軽減することができました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、累計では前年同期比マイナスが29億円増加し248億円のマイナスでした。

以上によりフリー・キャッシュ・フローは、当第2四半期では30億円のプラスと改善傾向にありますが、上期累計では営業減益が影響したため前年同期比で101億円減少し、286億円のマイナスとなりました。

引き続き、営業利益の改善と運転資本の削減に努め、フリー・キャッシュ・フローの増加と有利子負債の削減に努めます。

セグメント情報



(億円)	2023年3月期 4-9月期			2024年3月期 4-9月期			2025年3月期 4-9月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	1,821	48%	155	1,929	46%	218	1,800	43%	67	△ 130	△ 151
欧州	788	21%		735	17%		654	15%		△ 81	
アジア	490	13%		548	13%		574	14%		26	
米州	543	14%		646	15%		572	14%		△ 74	
自動車用ガラス事業	1,719	46%	△ 17	2,052	49%	63	2,173	51%	35	121	△ 28
欧州	699	19%		838	20%		892	21%		54	
アジア	324	9%		383	9%		399	9%		16	
米州	696	19%		831	20%		882	21%		51	
高機能ガラス事業	202	5%	57	199	5%	40	247	6%	39	48	△ 1
欧州	46	1%		50	1%		52	1%		1	
アジア	148	4%		140	3%		186	4%		46	
米州	8	0%		9	0%		10	0%		1	
その他	15	0%	△ 51	22	1%	△ 61	4	0%	△ 38	△ 17	22
合計	3,757	100%	144	4,202	100%	260	4,224	100%	102	23	△ 158

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

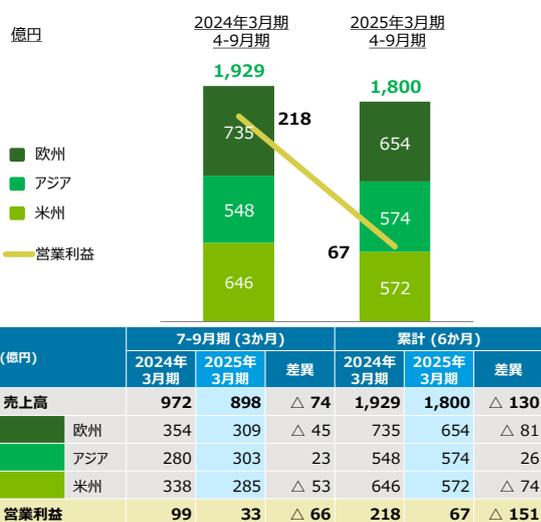
11

11ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の上期の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (累計：減収・減益 7-9月期：減収・減益)



欧州を中心に多くの地域で販売数量の減少と販売価格の下落の影響を受け、前年同期比で減収減益



欧州 (累計：減収・減益 7-9月期：減収・減益)

- 経済活動の減速に伴い販売価格が大きく低下
- 市場環境の悪化による影響は投入コストの減少により一部軽減
- 6月よりドイツのフロート窯1基で生産停止
- 1月よりさらにドイツのフロート窯1基で生産停止を決定

アジア (累計：増収・減益 7-9月期：増収・増益)

- 日本では販売数量が減少したが、販売価格は安定して推移
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。マレーシアの新設備も収益に貢献

米州 (累計：減収・減益 7-9月期：減収・減益)

- 北米は域内の需要軟化が継続し、販売価格が低下、販売数量も減少
- 南米は需要が減少し、販売数量減少
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。米国の既存フロートラインの転換は順調に進捗

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

12

12ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、引き続き欧州を中心に多くの地域で販売数量が減少し、販売価格も下落したため、前年同期比で減収減益となりました。

欧州は、減収減益でした。

中長期的には新築のみならずリフォームによる需要が見込まれるものの、経済活動の減速が続いたため、販売数量が減少し、販売価格も低下しました。市場環境は悪化しましたが、原燃材料等の投入コストが前年同期比で減少したため一部軽減しました。

2024年6月より、ドイツのバイアハマー工場にある2基のフロート窯のうちの1基において、来年に予定されている定期修繕を控え、前倒しで生産を停止しています。

これに加え2024年10月10日に公表しました通り、

ドイツのグラートバック工場稼働する2基のフロート窯のうちの1基についても、

2025年1月に生産を停止することを決定しました。

これらにより、低下した資産稼働率の改善によるコスト削減と、欧州における建築ガラス市場の需給状況の改善を目指します。

アジアは、累計では増収減益、当第2四半期（7-9月期）は増収増益でした。

日本では、販売数量は減少しましたが、販売価格は安定して推移しました。

太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

前年12月に稼働を開始したマレーシアの太陽電池パネル用ガラスの新設備も収益に貢献しています。

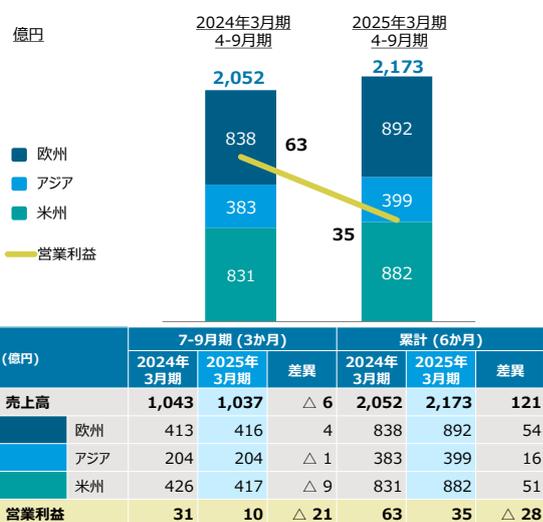
米州は、減収減益となりました。

北米は、域内市場の需要が軟化したため販売価格が低下し、販売数量も減少しました。

南米は、アルゼンチンでの需要が減少し、販売数量が減少しました。
太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調で、
米国オハイオ州ロスフォードの既存フロートラインの転換は本年度末の稼働開始に向けて
順調に進捗しています。

自動車用ガラス事業 (累計：増収・減益 7-9月期：減収・減益) NSG GROUP

販売数量回復ペースが鈍化した、価格転嫁の進展および円安による影響もあり累計では増収。営業利益は人件費等その他コスト上昇の影響を受け、前年同期比で減少



欧州 (累計：増収・減益 7-9月期：増収・減益)
 アジア (累計：増収・増益 7-9月期：減収・増益)
 米州 (累計：増収・減益 7-9月期：減収・減益)

- 販売数量は、欧州での自動車生産減少、アジアと北米の一部取引先での生産停止の影響を受け、回復ペースが鈍化
- 原材料およびその他コスト増加を転嫁するための価格交渉がさらに進捗。販売価格が改善したものの、人件費等その他コストを十分に吸収できず、営業利益が減少
- 北米で一時低下していた生産効率をさらに改善
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

13

13ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、上期累計は増収減益で当第2四半期（7-9月期）は減収減益でした。販売数量の回復ペースが鈍化しましたが、価格転嫁の進展と円安の影響もあり累計では増収となりました。減益は主に人件費等その他コストが上昇したためです。

販売数量は欧州での自動車生産の減少やアジアと北米の一部取引先で生産停止がありその影響を受けたため、回復ペースが鈍化しました。

原材料および人件費等その他コスト上昇の影響を緩和するための価格交渉もさらに進展し、全地域で販売価格が改善しています。これに伴いアジアでは増益となったものの、欧州、米州では人件費等その他コストの上昇を十分に吸収できなかったため、減益となりました。

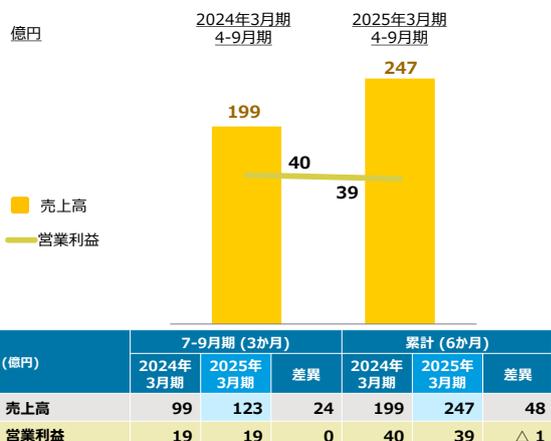
北米では第1四半期においていくつかの工場で一時的に生産効率が低下しましたが、さらに改善しています。

引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

高機能ガラス事業 (累計：増収・減益 7-9月期：増収・増益)



多くの事業で需要の回復が継続し増収。
営業利益はその他コスト増加により前年同期と同水準



- ファインガラスでは、一部製品で価格水準が改善
- プリンター用レンズは、需要が回復
- グラスコードは補修用市場での強い需要を背景に販売数量が増加
- メタシャイン® は自動車用塗装向けで増加

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

14

続きまして14ページです。

高機能ガラス事業は、多くの事業で需要の回復が継続し増収でした。
営業利益はその他コストが上昇したため、前年同期と同水準でした。

ファインガラスは、一部製品で価格水準が改善しました。

プリンター用レンズは、プリンターメーカーでの生産数量増加に伴い
販売数量が回復し、また販売価格も改善しました。

グラスコードは、エンジン用タイミングベルトの補修用市場での
強い需要を背景に販売数量が増加しました。

メタシャイン®は自動車用塗装向けで売上高が増加しました。

2. 2025年3月期 業績予想について

2025年3月期 業績予想

欧州経済減速の影響を受けた上期実績を踏まえ、営業利益、税引前利益、当期利益の予想を下方修正。グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益改善に向けてあらゆる施策を実施

(億円)	2025年3月期 上期予想 (前回)	2025年3月期 上期実績	2025年3月期 通期予想 (前回)	2025年3月期 通期予想 (今回)	増減	2024年3月期 通期実績 (参考)
売上高	4,100	4,224	8,400	8,500	100	8,325
営業利益	120	102	300	260	△ 40	359
個別開示項目 (純額)	-	△ 0	-	20	20	1
個別開示項目後営業利益	120	102	300	280	△ 20	360
金融費用 (純額)	△ 130	△ 126	△ 280	△ 270	10	△ 282
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	-	-	37
持分法による投資利益	25	25	50	50	-	51
持分法投資に関する その他の利益	-	-	-	-	-	10
税引前利益	15	2	70	60	△ 10	176
当期利益 (△損失)	10	△ 34	20	10	△ 10	109
純利益 (△損失)*	0	△ 39	0	0	-	106

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

16

続いて2025年3月期の業績予想です。

表の左側から、2025年3月期の上期の前回予想および実績、通期の前回予想および今回予想とその増減、そして前年2024年3月期通期実績と並んでおります。

今般、通期における営業利益、税引前利益、当期利益予想をそれぞれ下方修正いたしました。

これは、欧州経済減速の影響を大きく受けた上期の実績が想定を下回ったこと、および、本年度下期においては減速した欧州経済の大きな改善は期待できない見込みであることを踏まえたものです。

当社は、グループ全体でのより一層のコスト削減等、利益の改善に向けてあらゆる施策を実施していきます。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

2025年3月期 業績予想の前提

グループ	<p>欧州の経済減速の影響を大きく受け、営業利益、税引前利益、当期利益予想を下方修正。 グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益改善に向けてあらゆる施策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要通貨について2024年3月期より円安を見込む エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、インフレによる人件費等その他コスト増加は継続 コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続
建築用ガラス	<p>欧州の経済減速は当面続くが、フロート窯の生産停止により対応。太陽電池パネル用ガラスで好調が継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧州：景気減速による販売数量減少・販売価格低下と、コスト増加の影響が続く アジア：日本では販売価格が安定して推移 北米：域内の需要軟化が継続し、販売数量が減少。米国の経済動向に注視 南米：アルゼンチンの需要軟化が継続 太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が継続
自動車用ガラス	<p>人件費等コスト増加の影響が続くが、販売価格改善交渉を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車需要を背景に販売数量の回復は続くが、ペースは鈍化 自動車メーカーと、投入コスト増加を軽減するための価格改善交渉を継続 引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により更なる収益性改善を目指す
高機能ガラス	<p>多くの市場が回復。コスト増加の影響を販売数量および販売価格の改善で吸収</p> <ul style="list-style-type: none"> ファインガラスは、IT市場が回復 プリンター用レンズは、プリンターメーカーの生産数量増加に伴い需要回復 グラスコードは、補修用で販売数量が増加

スライド17に移ります。

先ほどご説明しました通り、欧州経済の減速影響を大きく受け、営業利益、税引前利益、当期利益予想を下方修正しています。

グループ全体の前提としては、

主要通貨については、昨今の為替情勢を踏まえ、

2024年3月期と比較し円安を見込んでいます。

エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ傾向の影響を受け人件費等その他のコストの増加は継続すると見えています。

引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続し、業績改善に努めます。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、

欧州においては、経済減速による販売数量の減少と

販売価格低下および人件費等その他のコスト増加の影響を

引き続き受ける見込みであり、

フロート窯の生産停止も含めたコスト削減施策を進めていきます。

アジアでは、日本での販売価格が安定して推移します。

北米では、域内市場の需要は軟化が続き、販売数量も減少する見込みです。

今後の米国の経済動向に引き続き注視が必要です。

南米ではアルゼンチンでの需要は引き続き軟化が見込まれます。

一方で、太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要を継続します。

自動車用ガラス事業では、
人件費等コスト増加の影響が予想されますが、販売価格の改善交渉を継続いたします。
販売数量はペースは鈍化するものの、自動車需要を背景に回復が続きます。
引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、
さらなる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、
事業を行う多くの市場で回復が続く見込みです。
販売数量および販売価格の改善により
コスト増加の影響を吸収していくことを目指します。

グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益の改善に向けてあらゆる施策を実施し、
通期業績予想の達成に注力してまいります。

3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における 財務目標の進捗状況

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況



欧州経済減速の影響を受けるが、収益性は改善傾向。

引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2025年3月期（4-9月期） 実績
収益性（P/L）	営業利益	640億円		102億円：2025年3月期第2四半期は55億円と、第1四半期（48億円）からは改善
	営業利益率（ROS）	7%	10%以上	2.4%：2025年3月期第1四半期（2.2%）から改善
▼				
キャッシュ創出（C/F）	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		△286億円：7-9月期ではプラスだが、営業減益および運転資本の季節的な変動により累計のフリー・キャッシュ・フローはマイナス。営業活動によるキャッシュ・フローは、運転資本の季節的増加の抑制が営業減益の影響を軽減
▼				
財務基盤の安定化（B/S）	有利子負債	4,420億円		5,310億円：営業減益および運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより増加
	自己資本比率	15%		11.1%：前期末から1.2pt低下

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

2030 Vision : Shift the Phase 説明資料

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j02.pdf

19

CEOの細沼です。

19ページでは中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の主な進捗についてご説明します。

2024年5月に2025年3月期から2030年3月期までの6年間を対象とする中期経営計画である「2030 Vision : Shift the Phase」を発表しました。本中計期間においては、収益性を向上させキャッシュ創出力を高め財務基盤を改善することに徹底して注力することを目標にしています。そのため、収益性（P/L）、キャッシュ創出（C/F）、財務基盤の安定化（B/S）について2027年3月期において達成すべき財務目標を5つ掲げております。

まず、営業利益については、上期では102億円と欧州における経済減速の影響を大きく受け、業績予想に対して逆風の中でのスタートとなりましたが、2025年3月期第1四半期の48億円と比較すると、第2四半期では55億円と改善しています。営業利益率も前四半期の2.2%から0.2ポイント改善し、2.4%となりました。

フリー・キャッシュ・フローについては、7-9月期ではプラスですが、営業減益と運転資本の季節的な変動により286億円のマイナスとなりました。なお営業活動によるキャッシュ・フローは運転資本の季節的な増加を抑制し、営業減益の影響を軽減しました。

有利子負債は5,310億円と前期末の5,065億円から246億円増加しました。これは主に営業減益と運転資本の季節的な変動に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスによるものです。

自己資本比率は11.1%で、円高と純損失計上の影響により
前期末比から1.2ポイント低下しています。

今後も引き続き、有利子負債の削減および自己資本比率の改善に向けて、
収益性を改善し、キャッシュ創出力を強化していきます。

4. 欧州の事業環境と施策

欧州の事業環境と施策

欧州ではエネルギー効率改善のためのリノベーション需要は中長期的に拡大。
ダウンストリーム強化による脱コモディティ製品化により対応

1. 欧州の事業環境

- 直近ではインフレ拡大、高金利の継続に伴う経済減速の影響を大きく受けて需要が減少
- 金利の低下が始まっており、それに伴う段階的な経済回復を期待
- エネルギー効率改善のためのリノベーション需要は中長期的に拡大

2. 施策～「2030 Vision : Shift the Phase」の「Business Development」に基づく脱コモディティ製品化

- アップストリーム（板硝子生産工程）の削減
 - 英国でフロート板ガラスと型板ガラスの溶融窯を共用化（2023年4月21日公表）
 - ドイツ・バイアハマー工場のフロート窯1基での定修前の早期生産停止（2024年3月19日公表）
 - ドイツ・グラートベック工場のフロート窯1基での生産停止（2024年10月10日公表）
- ダウンストリーム（板硝子加工工程）の脱コモディティ製品強化
 - 複層ガラス、トリプル複層ガラス（主にポーランド）
 - 先進的なコーティング技術を活用した製品低放射（Low-E）ガラス等（英国、ポーランド）
 - 大型ラミネート合わせガラス（ドイツ）

これまでご説明してきました通り、2025年3月期の上期実績および通期の業績予想においては、経済減速により欧州の建築用ガラス事業が大きな影響を受けています。

そこでこの21ページでは、短期から中長期的にかけての欧州の事業環境と施策についてご説明します。

まず、事業環境につきましては確かに直近ではインフレの拡大や、金利が上昇し、2024年3月期下期以降それが継続したことに伴って経済が急速に減速し、ガラスの需要も減少したため販売価格が大きく減少しています。しかし、今年度に入って以降、インフレ率が落ち着きを見せるとともに金利の低下が始まりそれに伴って徐々に経済が回復していくことが期待されます。他方で、中長期的には環境意識の高い欧州では窓ガラスにより室温をコントロールし、温室効果ガス排出量を削減すべくエネルギー効率を改善するためのリノベーションの需要が拡大していくと見込んでいます。

このような現在直面している厳しい事業環境および中長期的に期待される需要拡大に対しては、本年度から開始した中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の「Business Development」に基づいて、脱コモディティ製品化を進めてまいります。まず短期的には、需給環境が悪化していることに対応し、アップストリームの生産量を削減します。具体的には、2023年4月21日に公表しました通り、英国でフロート板ガラスと型板ガラスの溶融窯を共用化します。

また、2024年3月19日に公表の通りドイツ・バイアハマー工場にあるフロート窯2基のうち1基について本年6月に定期修繕に先立ち早期生産を停止しました。
さらに追加的に、2024年10月10日に公表した通り、ドイツ・グレートベック工場にあるフロート窯2基のうち1基についても、2025年1月に生産を停止することを決定しました。
これにより、低下した資産稼働率の改善による固定費の削減とともに需給の改善による販売価格の上昇も目指します。

それに合わせ、中長期的に拡大する需要に対応すべく、ダウストリームにおいては収益性改善のため脱コモディティ製品強化を目指し、戦略製品の拡販や設備投資を進めていきます。
複層ガラスやトリプル複層ガラスの拡販を主にポーランドで強化し、またコーティング技術を活用した低放射ガラス（Low-Eガラス）等のコーティング技術を活用した製品の供給拡大をイギリスやポーランドで検討しています。
ドイツでは新たな製品として、大型ラミネート合わせガラス生産設備への投資を計画しています。

5. まとめ

まとめ

1. 2025年3月期 第2四半期決算概要

- 欧州経済減速の大きな影響が建築用ガラス事業を中心に継続。売上高は為替影響もあり前年同期と同水準だが、営業利益は減益
- 経済減速を受け欧州建築用ガラス事業で販売価格と稼働率が低下。人件費等の増加によりその他コスト増加も継続
- 自己資本比率は11.1%と前期末比で1.2pt低下。有利子負債は営業減益および運転資本の増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより前期末比で増加
- フリー・キャッシュ・フローは、7-9月期ではプラスだが前年同期比では営業減益のため減少

2. 2025年3月期 業績予想

- 欧州の経済減速の影響を大きく受け、営業利益、税引前利益、当期利益予想を下方修正
- 主要通貨について2024年3月期より円安の見込み
- エネルギー価格や原材料価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ傾向を反映し人件費等その他コストの増加は継続を見込む
- グループ全体でのさらなるコスト削減等、利益の改善に向けてあらゆる施策を実施

3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況

- 欧州経済減速の影響を受けるが、収益性は改善傾向。引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力

4. 欧州の事業環境と施策

- 欧州ではリノベーション需要は中長期的に拡大する見込み。ダウンストリーム強化による脱コモディティ製品化により対応

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料

- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- ガラス価格の推移
- 主なニュースリリース

連結損益計算書 四半期別推移

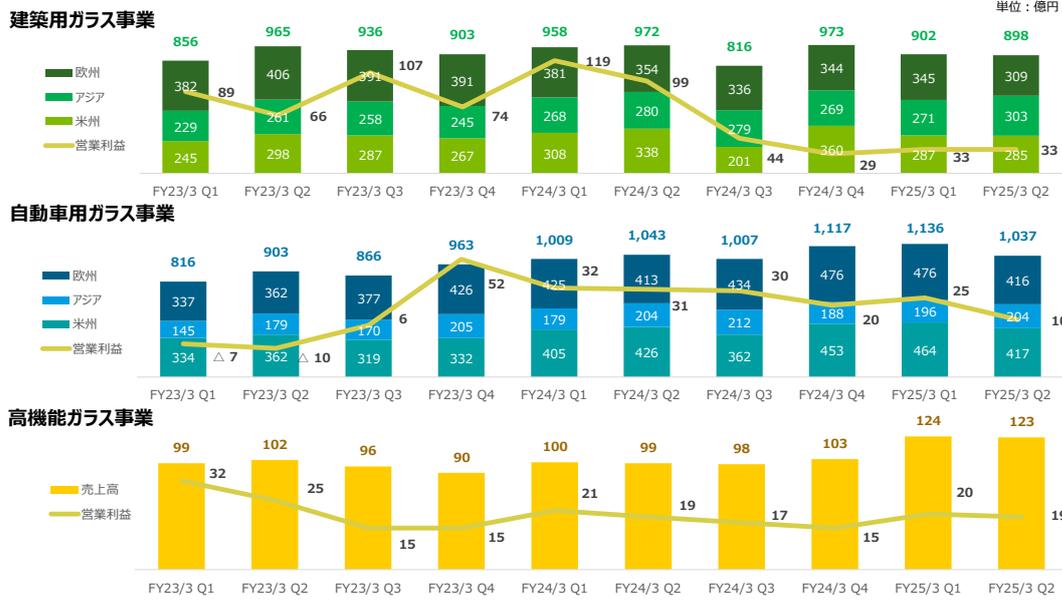


(億円)	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期	
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期
売上高	1,779	1,977	1,906	1,973	2,080	2,122	1,925	2,198	2,164	2,060
営業利益	83	62	97	107	146	115	61	38	48	55
営業利益率	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%	7.0%	5.4%	3.2%	1.7%	2.2%	2.7%
個別開示項目 (純額)	23	△ 473	10	△ 12	△ 8	11	6	△ 8	2	△ 2
個別開示項目後営業利益 (△損失)	106	△ 411	107	94	138	125	67	29	49	53
金融費用 (純額)	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61	△ 64	△ 77	△ 64	△ 78	△ 60	△ 66
持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	-	37	-	-	-	-	-
持分法による投資利益	22	10	21	20	10	12	15	14	11	14
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	△ 12	5	△ 4	△ 4	11	△ 0	△ 1	△ 0	-	-
税引前利益 (△損失)	88	△ 434	77	49	133	61	17	△ 35	0	1
当期利益 (△損失)	33	△ 403	22	38	75	30	36	△ 32	27	△ 61
純利益 (△損失)*	24	△ 412	17	34	70	27	37	△ 29	24	△ 63
EBITDA	180	161	202	207	253	226	170	168	175	175

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失) 26

事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移



セグメント情報



(億円)	2023年3月期					2024年3月期					2025年3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計
売上高: 建築用ガラス	856	965	936	903	3,659	958	972	816	973	3,718	902	898	1,800
欧州	382	406	391	391	1,571	381	354	336	344	1,415	345	309	654
アジア	229	261	258	245	992	268	280	279	269	1,096	271	303	574
米州	245	298	287	267	1,096	308	338	201	360	1,206	287	285	572
営業利益	89	66	107	74	336	119	99	44	29	291	33	33	67
売上高: 自動車用ガラス	816	903	866	963	3,547	1,009	1,043	1,007	1,117	4,176	1,136	1,037	2,173
欧州	337	362	377	426	1,502	425	413	434	476	1,747	476	416	892
アジア	145	179	170	205	699	179	204	212	188	783	196	204	399
米州	334	362	319	332	1,347	405	426	362	453	1,645	464	417	882
営業利益	△ 7	△ 10	6	52	41	32	31	30	20	113	25	10	35
売上高: 高機能ガラス	99	102	96	90	388	100	99	98	103	399	124	123	247
欧州	21	25	22	27	95	25	26	26	30	106	28	23	52
アジア	75	73	70	58	276	71	69	67	69	275	91	95	186
米州	4	5	4	4	16	4	5	5	4	18	5	5	10
営業利益	32	25	15	15	87	21	19	17	15	71	20	19	39
売上高: その他	8	7	9	18	41	13	8	5	6	33	2	2	4
営業利益	△ 31	△ 19	△ 31	△ 34	△ 115	△ 27	△ 34	△ 30	△ 26	△ 117	△ 31	△ 7	△ 38
売上高: 合計	1,779	1,977	1,906	1,973	7,635	2,080	2,122	1,925	2,198	8,325	2,164	2,060	4,224
営業利益	83	62	97	107	348	146	115	61	38	359	48	55	102

2024年11月8日 | 2025年3月期 第2四半期決算報告

28

地域別売上高および営業利益

(億円)	2024年3月期 4-9月期			2025年3月期 4-9月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	1,623	39%	29	1,598	38%	△ 112	△ 25	△ 141
アジア	1,071	25%	163	1,159	27%	171	88	8
米州	1,485	35%	129	1,463	35%	82	△ 23	△ 48
その他 *	22	1%	△ 61	4	0%	△ 38	△ 17	22
合計	4,202	100%	260	4,224	100%	102	23	△ 158

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目

(億円)	2024年3月期 4-9月期	2025年3月期 4-9月期
非流動資産の売却による収益	-	3
非流動資産の減損損失の戻入益	2	0
係争案件の解決に係る収益（△費用）純額	9	△ 0
非流動資産の減損損失	△ 6	△ 1
リストラクチャリング費用	△ 0	△ 3
棚卸資産の評価減	△ 2	-
その他	△ 0	△ 0
個別開示項目 純額	3	△ 0

為替レート・為替感応度



期中平均レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	163	163	164	163	172	177	179	182	197	195
ユーロ	138	139	140	141	150	153	154	157	168	165
米ドル	129	134	137	135	138	140	143	144	156	152
ブラジル・レアル	26.4	26.4	26.5	26.3	27.7	28.6	29.0	29.4	29.9	28.3
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用									

2025年 3月期
見通し
195
165
152
28.3

期末レート

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	165	161	160	165	183	182	181	191	204	191
ユーロ	142	141	140	145	158	157	157	163	173	159
米ドル	136	145	132	133	145	148	143	152	162	143
ブラジル・レアル	26.2	26.7	25.7	26.2	29.8	29.5	29.2	30.4	29.3	26.2
アルゼンチン・ペソ	1.09	0.98	0.76	0.64	0.57	0.42	0.18	0.18	0.18	0.15

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%円安になった場合の影響額

	2024年 3月期
資本	38.0億円の増加
当期利益	1.0億円の改善

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2024年3月期 4-9月期	2025年3月期 4-9月期	2025年3月期 見通し
減価償却費	219	248	490
資本的支出	245	210	630
通常投資	176	116	330
戦略投資	69	94	300
研究開発費	49	52	114
建築用ガラス事業	16	19	
自動車用ガラス事業	15	15	
高機能ガラス事業	4	4	
その他	14	14	

ガラス価格の推移



2024年5月～2024年11月 主なニュースリリース



2024年5月29日	公益財団法人日本板硝子材料工学助成会 第46回研究助成金贈呈式の開催
2024年6月3日	日本板硝子と白山、液浸冷却対応の多心光コネクタを共同開発 COMNEXTに「世界初」展示
2024年6月27日	2024年3月期（第158期）定時株主総会の議決権行使結果を掲載
2024年6月28日	日本板硝子、Jパワー、新日本繊維による環境配慮型高機能リサイクル繊維の事業化に向けた共同検討について
2024年6月28日	コーポレートガバナンスに関する報告書を更新・開示しました
2024年7月9日	国内初、「スパーシア®」が真空ガラスのJIS認証を取得
2024年7月16日	日本板硝子と松竹が共同で運営する透明LEDビジョン 銀座松竹スクエアにて8月1日より試験放映開始
2024年7月29日	英国事業所にグリーン水素製造プラントを設置
2024年8月26日	日経CNBC「トップに聞く」細沼社長出演の動画公開
2024年8月30日	NSGグループにおける各国のDEI活動について
2024年9月11日	Gomez ESGサイトランキング2024 優秀企業に選出されました
2024年10月10日	ドイツ・グラートベック工場のフロート窯の停止について
2024年11月1日	国内建築ガラス事業の子会社再編について

NSG

GROUP